

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12474

研究課題名（和文）外部社会との急速な接続に伴うラオス北部山地部農村の複合生業の機能動態

研究課題名（英文）Livelihood dynamics through rapid globalization in mountain villages in northern Laos

研究代表者

廣田 勲 (Hirota, Isao)

岐阜大学・応用生物科学部・准教授

研究者番号：50572814

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、自給的なラオス北部の農村に道路が到達しグローバル化の影響が直接的に及ぶようになった結果、住民はどのような生業戦略をとり、暮らしを安定化させているのかを明らかにすることを目的としている。生業の安定化には生業活動の多様化を伴うことが示唆されてきたが、研究対象地では、これまで「追いやられた多様化（distress diversification）」の典型的な活動とされてきた林産物採取がむしろ村落経済の向上に寄与していることが明らかとなり、市場の多様な要求に応えられる多様な森林資源の重要性が明確になった。資源が枯渇しないような方策も講じられており持続的な利用の仕組みも存在することがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、これまで生業の多様化に関する理解が深まった。特に、これまで比較的外部から孤立してきた農村が外部社会とつながりグローバル社会に適応する過程で、自給的部分を残しつつも多様な森林資源と連動した形の生業戦略がとられることがわかった。この成果は、東南アジア大陸部の農村において、市場経済化が進行していく過程で自然資源が初期の適応に重要であることを示しており、今後の農村の持続的な発展を考えていくうえで重要な知見であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to determine what livelihood strategies residents are applying to stabilize their livelihoods as a result of the direct impact of globalization with the arrival of roads to subsistence farming villages in northern Laos. It has been suggested that livelihood stabilization involves diversification of livelihood activities, but in the study area, forest product extraction, which has been considered a typical activity of “distress diversification,” was found to be contributing to the improvement of the village economy. The importance of forest resource diversification in meeting the diverse demands of the market has become clear. It was also found that there are measures to protect the resources so that they will not be depleted, and that there are mechanisms for their sustainable use.

研究分野：地域研究

キーワード：生業の多様化 生業多様性 NTFPs Pavie Mission

1. 研究開始当初の背景

東南アジア大陸山地部では、中国の「一帯一路」構想にみられるように道路交通網整備が急速に進み、市場経済の浸透が顕著である。こうした中、商品作物の導入が大規模に行われたり、様々な森林資源が商品価値を持つようになったりし、山村の暮らしは一変した。一方で村落が商品作物へ大きく依存するようになると価格変動の影響を受けやすくなり、外部の市場経済とつながることがかえって家庭の経済状況の悪化を招く原因になっていることも一部わかってきた。本研究の対象地であるラオス北部山地部には、ここ20年ほどで車が通行できる道路がはじめて到達した村落も多く、世界の中でも最も急速にグローバル化の影響を受けてきた地域の一つであると考えられ、これまで外部社会から比較的孤立してきた農村社会がどのように急速なグローバル化に適応しているのか実態を解明することは、グローバル社会における持続的な農村社会を考える上でも重要である。

2. 研究の目的

本研究は、近年の大規模な交通網整備によって外部社会との接続が急速に進むラオス北部山村において、これまで不安定になりがちであった農業生産を安定化させてきた複合的な生業活動の機能動態を、個々の連動性に着目しつつ実践的な側面から評価する。ラオス北部山地部における事例研究を通じ、自給的農村が急速に外部とつながる際の適応過程を解明し、より安定的かつ持続的な農村発展のあり方を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

まず、生業動態を追跡するのに適した村落の選定を行った。ラオスの中で近年最も道路交通網整備が進み道路が伸長している地域は、統計からラオス北部フアパン県であることがわかった。またフアパン県にある郡の中でもソーン郡はベトナム国境に近く、近年道路工事が盛んに行われているとの情報を得たため、ソーン郡の20ヶ村程度の村落において、聞き取り調査を実施し、町の中心地からのアクセスの良しあしに応じて4つの村落を選定した。これらの村落で聞き取り調査を実施し、近年の生業動態の変容と現在の生業について調べた。またコロナ蔓延期間中は特に、生業の安定性に関わる視点として重要な生業活動の多様性について理論的研究、事例研究含め文献調査を実施した。また、長期の生業活動の変遷についても一部取り組んだ。インドシナ半島におけるフランス植民地初期の文献調査を実施し、過去の生業、農業、環境、自然資源にどのようなものがあったのかについて調べた。

4. 研究成果

世界には生業基盤が不安定な地域が多くあるが、特にアフリカのサヘル地域を中心に調査した先行研究から、生業を安定化させる際に、生業活動の種類が多様化する現象(生業の多様化、livelihood diversification)が知られている。この生業の多様化について、大きく二つの傾向があることが知られており、これらはそれぞれ追いやられた多様化(distress diversification)と前進的な多様化(progressive diversification)とよばれている。前者は、十分な経済的活動に従事できる選択肢がなく、多くの低所得の労働に従事せざるを得ないような状態のことを指し、後者は、経済的活動を推進していく際に一つの活動に依存するのではなく様々な経済的活動を組み合わせながら生業活動を変化させていくような状態を指す。大きくは生業活動についてはこうした2つの側面があることが事例研究からも裏付けられてきたが、その一方で、多くの事例研究は分析のために生業活動を単純化しすぎていたり、あるいは自給的活動をほとんど無視している場合が見受けられ、より実態に即した生業多様度を表現する指標を選ぶことが重要であることもわかってきた。ラオス北部の事例研究からは、近年の道路交通網整備によって生業活動の組み合わせが急速に変化しつつあることがわかってきた。自給的な食料生産を維持しつつも水田の開拓を進め焼畑面積を減少させていくとともに、商品作物が大規模に導入されていた。森林資源に新たな商品が生まれ、これが農村経済に貢献していることも明らかとなった。商品作物として特に飼料用トウモロコシが大規模に導入されていたが、価格の大幅下落の際、アクセスのいい村落は仲買人との関係を維持し、トウモロコシ売買を維持できたものの、アクセスの悪い村落では仲買人の買い付けが無く、トウモロコシを売却することがほとんどできなかった。その際に重要な役割を持ったのが、家畜と林産物である。自給的食料生産の維持とともに、家畜と林産物により生業が維持されていた。家畜はアクセスのいい村落では投資の対象でもあり緊急時の役割とともに柔軟な役割をもっていた。商品価値のある林産物はヘッデーとよばれるキノコが特に重要であったが、これもトウモロコシ価格の下落の際の生業の維持の助けとなっていた。生業の多様化に関して様々な林産物採取を利用しながら農村経済の向上がみられ、これまで「追いやられた多様化」として扱われてきた林産物採取が、森林資源が豊富な本研究対象地の場合には「前進的な多様化」に貢献していることもわかった。フランス植民地期の文献調査に関しては、Mekong Commission Report および Pavie Mission の文献を中心に文献調査を行い農村関係の情報、自然環境、森林資源について着目して整理し書籍として出版した。これにより

網羅的な情報を検索可能なデータとしてまとめることができ、今後生業の変遷についてより長期かつ詳細な分析を行う際の情報の基盤を作ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Cahyo Wisnu RUBIYANTO, Isao HIROTA	4. 巻 66
2. 論文標題 Livelihood Transition and Diversification Strategies of Mountain Villages after Road Development: A Case Study in Sone District, Houaphan Province, Northern Laos	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tropical Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 113-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11248/jsta.66.113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松田正彦, 富田晋介, 広田勲, 山本宗立	4. 巻 16
2. 論文標題 脱農化パラドクス 現代東南アジア農業の理解に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11248/nettai.15.73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松田正彦, 富田晋介, 広田勲, 山本宗立	4. 巻 -
2. 論文標題 脱農化パラドクス 現代東南アジア農業の理解に向けて (印刷中)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Isao Hirota, Takashi Tsuji	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 Ethno-bamboo Approaches to the Pala'wan in the Mangrove Area of Palawan Island, the Philippines	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Southeastern Philippines Journal of Research and Development	6. 最初と最後の頁 47-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.53899/spjrd.v26i2.153	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cahyo Wisnu Rubiyanto, Isao Hirota	4. 巻 9
2. 論文標題 A Review on Livelihood Diversification: Dynamics, Measurements and Case Studies in Montane Mainland Southeast Asia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Reviews in Agricultural Science	6. 最初と最後の頁 128-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7831/ras.9.0_128	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Singkone Xayalath, Isao Hirota, Shinsuke Tomita, Michiko Nakagawa	4. 巻 13
2. 論文標題 Aboveground biomass and seasonal patterns of aboveground net primary productivity in five bamboo species in northern Laos	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Plant Ecology	6. 最初と最後の頁 150-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 広田 勲, 田口 裕允, 宮川 修一	4. 巻 56
2. 論文標題 中山間地域の自給的な農業生産・植物採取・消費の実態 岐阜県揖斐郡揖斐川町小津地区の事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農林業問題研究	6. 最初と最後の頁 46-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広田勲	4. 巻 114
2. 論文標題 東南アジアの焼畑農業とタケの広域的關係性について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 竹	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広田 勲	4. 巻 34
2. 論文標題 明治の日本男児が体当たりで挑んだ東南アジア探検：岩本千綱著「シャム・ラオス・安南 三国探検実記」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ピオストーリー	6. 最初と最後の頁 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Singkone Xayalath, Isao Hirota, Shinsuke Tomita, Michiko Nakagawa	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 Aboveground biomass and seasonal patterns of aboveground net primary productivity in five bamboo species in northern Laos	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Plant Ecology	6. 最初と最後の頁 150-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jpe/rtz056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 広田 勲	4. 巻 31
2. 論文標題 ラオス北部ルアンパバーン県におけるタケ資源の複合的利用 - シェンゲン郡4カ村の事例 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bamboo Journal	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Singkone Xayalath, Isao Hirota, Shinsuke Tomita, Michiko Nakagawa	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 Allometric equations for estimating the aboveground biomass of bamboos in northern Laos	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Forest Research	6. 最初と最後の頁 115-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13416979.2019.1569749	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 広田勲
2. 発表標題 筆ごとの調査からわかる農地の間接的価値
3. 学会等名 民族自然誌研究会第102回例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Isao HIROTA
2. 発表標題 Indirect Seed Conservation in Small-Scale Agroecosystem of Laos and Japan
3. 学会等名 BRITAE (Building Resilience in Tropical Agro-Ecosystems) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 広田勲, Cahyo Wisnu Rubiyanto, 富田晋介, 山本宗立, 松田正彦
2. 発表標題 ラオス北部の急速な道路交通網整備に伴う複合生業の適応過程
3. 学会等名 日本熱帯農業学会133回講演会 2023年3月13日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 富田晋介, 広田勲, 山本宗立, 松田正彦
2. 発表標題 東南アジアにおける水文環境の豊かさと不確実性の評価 1958年から2018年までの地表面気象データベースを利用して
3. 学会等名 日本熱帯農業学会133回講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Isao HIROTA
2. 発表標題 Bamboo in Laos and Japan
3. 学会等名 International workshop on “ Changing landscapes and livelihoods in Southeast Asian Massif ” (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広田 勲
2. 発表標題 ミャンマーの農業多様性と在来作物 : コメント
3. 学会等名 民族自然誌研究会第100回例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Isao HIROTA, Takashi Tsuji
2. 発表標題 Bamboo utilization in a swidden-fishing village of mangrove area of the Pala'wan in southern Palawan
3. 学会等名 UP Anthro-Socio National Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広田 勲
2. 発表標題 ラオスの焼畑の生態学的・農学的側面からの再評価
3. 学会等名 民博焼畑研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Isao HIROTA, Takashi Tsuji
2. 発表標題 Bamboo utilization in a swidden-fishing village of mangrove area of the Pala'wan in southern Palawan
3. 学会等名 UP Anthro-Socio National Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田正彦, 富田晋介, 広田勲, 山本宗立
2. 発表標題 東南アジア農村の生業構造を表す簡易指標 生計多様度指数の標準化と簡便化
3. 学会等名 日本熱帯農業学会第130回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広田勲
2. 発表標題 ラオスの焼畑の生態学的・農学的側面からの再評価
3. 学会等名 民博焼畑研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Cahyo Wisnu Rubiyanto, Isao Hirota
2. 発表標題 Transitions and Diversification in Livelihood Strategy of Montane People under Chinese and Vietnamese Influence in Northern Laos
3. 学会等名 The 31st Annual Meeting of the Japan Society of Tropical Ecology (JASTE31)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 広田 勲
2. 発表標題 東南アジアにおける稲作の生態
3. 学会等名 第23回TOYAMA植物フォーラム「イネとお米と日本酒と」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 広田 勲
2. 発表標題 人びとの暮らしと焼畑 - 日本文化の多様性を探る：コメント
3. 学会等名 国立民族学博物館・五木村共済企画『佐々木高明の見た焼畑 - 五木村から世界へ - 』公開セミナー 第1回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 広田 勲, Singkone XAYALATH
2. 発表標題 ラオス北部ルアンパン県のタケ利用 山地および山間盆地の農村の事例
3. 学会等名 第29回日本熱帯生態学会年次大会(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigeo Kobayashi, Yasuyuki Kosaka, Isao Hirota, Thatheva Saphangthong, Singkone Xayalath
2. 発表標題 Study on the Rehabilitation of Degraded Urban Land for Botanical Garden in Nam Xuang, Vientiane, Lao PDR
3. 学会等名 JASTE29
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 広田勲, 田口裕允, 宮川修一
2. 発表標題 中山間地域における小規模な作物生産と食用野生植物資源利用 - 岐阜県揖斐郡揖斐川町小津地区の事例 -
3. 学会等名 第69回地域農林経済学会 (愛知大学豊橋キャンパス)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 柳澤雅之, 広田勲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 208
3. 書名 東南アジア大陸山地部の自然と農業資料集成 仏領期インドシナ資料を中心に	

1. 著者名 広田勲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 170
3. 書名 パヴィ・ミッション (White Lotus 版Vol. 1, 3) の資料集成 (柳澤・広田編 『東南アジア大陸山地部の自然と農業資料集成 仏領期インドシナ資料を中心に』 p39-208)	

1. 著者名 柳澤雅之, 広田勲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 210
3. 書名 東南アジア大陸山地部の自然と農業資料集成 仏領期インドシナ資料を中心に	

1. 著者名 広田 勲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 農山漁村文化協会	5. 総ページ数 267
3. 書名 地域品種の継承とその多様な意味 中山間集落の全農地通年調査から (西川芳昭編『タネとヒト 生物文化多様性の視点から』)	

1. 著者名 広田 勲	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 農耕空間と親和的な「野生」植物のドメスティケーション タケと東南アジアの焼畑 (卯田宗平編『野生性と人類の論理 ポスト・ドメスティケーションを捉える4つの思考』)	

1. 著者名 広田 勲	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 農耕空間と親和的な「野生」植物のドメスティケーション タケと東南アジアの焼畑 (卯田宗平編『野生性と人類の論理 ポスト・ドメスティケーションを捉える4つの思考』)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

ラオス	ラオス国立農林業研究所	ラオス国立大学林学部		
-----	-------------	------------	--	--